

第13回次世代内航船に関する乗組み制度検討会の結果概要

1. 日時・場所

日時：令和3年7月8日（木）13：00～15：00

会議形式：WEB会議

2. 出席者

別紙1のとおり。

3. 議題

- (1) 実船検証の結果（報告）：事務局及び海上技術安全研究所より説明。
- (2) 検証運航の進め方：事務局より説明。
→検証運航に進むことについて承認。

4. 主な意見

○ 実船検証の結果について

- 今回の検証では、一等機関士から部員に代えた時にどう対応できるかという点で、陸上からの支援というよりは教育というところが大きかったのではないかと思う。（三輪委員）
- 二重のトラブルが発生した場合を想定した検証は実施されたのか。当該検証がなされないままに、一等機関士が乗船しない検証運航に進むことに疑問。（立川委員）
- 陸上から船上への支援に係る連絡・通信について更なる検証を行う等、様々な検証をシャドー要員のいる実船検証の段階で実施したうえで、検証運航に進む方が安心と感じる。（立川委員）
- 今回はトラブルが起こらなかったけれども、確かに起こり得るであろうということであれば、検証運航の時にその点についてどうだったのかということを検証することは、最終的な判断の重要なポイントとなると思う。（野川座長）

○ 検証運航の進め方

- 次の段階に進めないほどの問題として挙げられるかという点では、むしろ課題として次の検証運航の中で意識をして検討していくことではないか。（野川座長）

- 次回の検討会では、検証運航において、高度船舶安全管理システムによる陸上からの支援がどのように運用されているのかを映像等でお見せいただきたい。(内藤委員)
- 検証運航ではシャドー要員がいなくなるため、機関部の乗組員の省力化がまさに注目されるどころ、検証においては乗組員の労力の点でも注視いただきたい。(三輪委員)
- 次の3か月の検証運航では、二重トラブル等の色々なケースも想定しながら検証していただきたい。(蔵本委員)

○ その他

・ 船舶の通信

- 高度船舶安全管理システムについて、現状の海上における通信状況を踏まえると難しいこととは理解しているが、将来的には映像によるサポートも可能となることを期待。(内藤委員)

・ 事故時の責任

- もし、検証中に海難事故などが起きた場合の責任の所在について、船員が責任を負うことにならないかを懸念。(平岡委員)

・ 船員の確保育成

- 安全の確保という観点では、配乗見直しにより職員を部員に置き換えるということより、業界として職員を育成・確保していく方が重要ではないか。(立川委員)
- 現在検証しているスキームは、船員の数を減らすということではなくて、資格要件を緩和するものであり、一等機関士として5級の免状を持った者を探して乗せることが困難なとき、代わりに乗船させ、即戦力としてトレーニングをしながら育てていくことができるので期待している。(蔵本委員)
- 船員の育成にもこのスキームを使っていきたいと考えており、ぜひ早急に検証運航を実施していただきたい。(井本委員)